

令和2年度 第1回

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

議事要旨

宇治市

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

<開催年月日> 令和2年8月7日(木曜日)午後1時30分から午後2時45分まで

<開催場所> 宇治市本庁舎8階大会議室

<出席者>

長谷川 理生也	宇治商工会議所 専務理事
平井 恭子	京都教育大学 教授
真山 達志	同志社大学 教授
川口 龍雄	京都府山城広域振興局 局長
服部 広志	株式会社京都銀行 宇治支店長
西村 徹也	連合京都南山城地域協議会 事務局長
上野 秀雄	株式会社京都新聞社 南部支社長
高田 悦子	特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク 理事
寺川 徹	市民公募委員
日野 真代	市民公募委員

計10名

<事務局等>

木村 幸人	宇治市 副市長
貝 康規	政策経営部 部長
遠坂 尚	政策経営部 副部長
大北 浩之	政策経営部経営戦略課 課長
佐々木 卓也	政策経営部経営戦略課 未来プロジェクト推進室 副課長
服部 和夫	政策経営部経営戦略課 主任

計6名

<会議次第>

1. はじめに
2. 議事
 - ・宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括（案）について
 - ・人口動向分析について
3. 閉会

<会議内容>

1. はじめに

事務局）失礼いたします。それでは、定刻になりましたので、会議を始めさせていただきます。本日は、皆様方には大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

《欠席委員の報告》

本日の資料につきましては、タブレット端末にてご用意しております。
それでは、会議の開催にあたりまして、副市長よりご挨拶を申し上げます。

《副市長 挨拶》

それでは、これより委員長に進行をお願いいたしますので、どうぞよろしくお願
いします。

2. 議事

委員長）それでは、私の方から会議次第により進行させていただきます。
これより宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開会いたします。お手元
にあります会議次第2、議事の「宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括（案）に
ついて」及び「人口動向分析」を事務局より説明をいただきたいと思
います。

《資料に基づき事務局から説明》

委員長）ありがとうございました。それでは、これより質疑に入らせていただきます。
なお、本会議では会議録を作成いたしますが、会議録は情報公開の対象となります。
それでは事務局のご説明につきまして、ご意見やご質問のある方は挙手をお願い
いたします。

委員）失礼いたします。私は教育的な立場の仕事になるものですから、その方面からの
質問なんですけれども、宇治学でいうと、小学生、割と低い年齢層からの宇治への愛着とか

小学校3年生からの宇治茶の体験授業とか、そういう教育面で力を入れていらっしゃるというのがすごくよく分かって、数年にわたる取り組みで功を奏しているのがよく分かる。それは分かるんですが、今年のようなコロナウィルス関係で学校に行くことができないような状況の特別な年ではあると思うんですけども、そうした場合の教育格差や、オンライン授業が各家庭にどの程度行き渡っていて、再開後の学習のフォローとかどのようなになっているのか、そういった数値とかでは分からないものがあるので、そのあたりの市としての施策について少しフォローをお願いしたい。

事務局) コロナの影響で学習がストップして、再開後の支援策等々、というご質問でよろしいでしょうか。そういった意味でいきますと、やはりオンライン学習が課題になってくるということで、国においてもICTの活用、教育を推進するよというということで、今タブレット端末を早期に全児童に整備するという事で、宇治市においても補正予算なども活用させていただきながら、今年度中には全ての児童に対してタブレット端末を配布して参りたいと考えております。実際にその運用をどうして学習に活かしていくかというのは今後の部分にはなりますけれども、配置と合わせてこういった形でタブレット等を活用していくかというあたりは引き続き検討させていただいて、配置した時点ではしっかりと活用できるようにはさせていただきたいと考えております。また、この間、どうしても3か月ほど学校を休んでいたということで学習の遅れの部分については人的サポートということで、各学校に支援員を別途配置をさせていただいて、学習をサポートできるような体制の強化を図っているところです。従いまして、様々な課題がございますのでそういったところについては常に同介入していくべきかというあたりは、市としても研究・検討を重ねて適切な対応ができるようにやってまいりたいと考えております。

委員) 失礼します。今回大変細かくまとめていただきましてありがとうございました。2点お伺いしたいことがあります。1点は、104ページになります。私は普段から子育て支援の仕事させていただいておまして、そのあたりをお聞きしたいと思ってます。だいたい今回令和元年まで毎年どういう状況だったかということが書かれておりますけれども「しあわせ子育て応援事業」だけ平成29年までなのは、何かあったのかなということでお聞きしたいのが一つ。あと、87ページに戻るんですが、若い世代の就労・結婚・出産・子育ての希望を叶える環境づくりということで、今回のまとめは本当にこの通りだなと思うのですが、私もこの会議に参加しながら気づいていない点もあって、次に向けてということで一つ聞いていただきたいなと思う事があります。今回出生率も低下してまして、子育てを担う若い世代の就労支援や結婚・出産・子育て支援ということを挙げておられるんですけども、今年の1月に市長に子育て支援拠点トリドリに来ていただきまして、市民と市長の対話ミーティングというものをさせていただきました。開催場所としていただきました。その時にいろいろ質問がある中で、やはり不妊で悩んでおられる方がいらっしゃいまして、それがたまたま一人じゃなくて、その一人の背景には沢山いらっしゃる

て、今から数値目標というところでの出世率は出産、ただ産むということではなくて、やはり、産むまでの妊娠というところでのサポートも今からもっと必要になってくるのではないかなと思ひまして、第二期に向けて少し意見を出させてもらえたらなと思ひて発表させてもらいました。以上です。

委員長) 事務局、お願いします。

事務局) 一つ目の質問でございますが、104ページで「しあわせ子育て応援事業」が平成29年度で途切れているんですけども、事業全体の効果を検証する中で発展的に拡充という形で新たな事業を作らせていただいて、より一層の子育て支援策の実施を図らせていただいているところでございます。二つ目、出生率の低下、結婚、宇治で結婚したいと思える支援ということで、妊婦さんへの支援とおっしゃっていただいていたんですけども、宇治市では令和元年度からになるんですけど、産後ケアをいう事業を開始しております、今後も引き続き産後だけに留まらず、周辺の世代への支援をどうやって図るかというところを検討しながら支援をしていきたいと考えております。

委員) 産前・産後ケアについては存じております。妊娠に関してはそのものに関しての府の助成もあるんですけども、市の助成は今後どうなのかなと思ひて、これからの話だと思ひますが、それもあって一つ出させていただきました。すごくお金がかかって皆さん大変だということです。

委員長) では、他いなかでしょうか。

委員) 人口動態についてお尋ねしたいんですが、表の下の所、年齢別の表3のところで見ると、24歳から29歳までが一番減っている。また35歳から39歳、30歳から34歳も減っているんですけども、この減っていかれる理由、多分社会動態が原因と思ひるので、出て行かれる理由と、主にどちらの方に出て行かれているのかが分かれば教えて頂きたいです。

事務局) 人口動態の影響分析は非常に色々な難しい部分があります。そのような中で宇治市では転出者アンケートを取っております。この間20代から30代というのが減少傾向にあるという事が続いております、アンケート結果を見ているとやはり仕事の関係ですとか、あとは結婚、人生のターニングポイントの時に宇治から出て行かれるのが一番の要因であると考えております。一方で、ここも網掛けをさせていただいて、この間子育て施策を非常に重要視する中で、こういう若い世代とのお子様が入る傾向にあるかと思ひます。転出先でございますがどちらかというところ、関東、大阪、京都市、そういった大都市への流出が多くなっています。

委員) ありがとうございます。ということはやはり仕事関係ということ。お子さんの数が増えているということは、1世帯あたりのお子さんの数が増えている？

事務局) どちらかという、転入が増えており、1世帯あたりのお子様の数が顕著に増えているということが影響しているものではないと推測しております。

委員) ということは、出て行かれる方は独身の方が多い？

事務局) そうですね。子供自体が増えている、これは世帯として入って来られていて、実際それ以外の30歳以降が減っているのは単身で出て行かれることが多いという、あくまでも推測ではありますが、そういったところでの分析と考えております。

委員) ありがとうございます。

委員長) では他にいかがでしょう。

委員) 私たちにとって健康づくりや食育っていうのは、改めて、コロナの事もあってすごく大切だと感じているんですけども、53ページから誰もが生き活きと暮らせる宇治づくり推進事業ということで記載されていまして、スペースの関係もきっとあるかと思うんですが、54ページの令和元年度から「宇治市健康づくり食育アライアンス」というのが立ち上がっておりまして、そちらでいろいろな取り組みをされているかと思うんですけども、こちらの方を拝見しましたら、スペースの関係があるのか、これから記載を追記されるのかもしれないんですけども、ちょっとその部分が現時点では見当たらないように思ったんですが、今後健康づくりと食育が一体となってアライアンスで色んな活動をされておりますので、そういったことも是非追記していただければと思います。お願いできますでしょうか。

委員長) 事務局、いかがですか。

事務局) ご指摘いただいております通り、令和元年度から健康アライアンス事業ということで、宇治市が掲げています健康長寿日本一の実現に向けまして、新たなネットワークとしてNPO法人等の方々にも参画いただきながら、宇治市全体で市民団体を立ち上げながら健康づくりを進める取り組みをしております。従いまして今回主な部分で記載させていただいていた部分もございますので、次年度以降こういった施策も含めて全体として分かりやすくどういった形で毎年事業の報告をさせていただくか、十分に検討させていただきたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。

委員長) よろしいでしょうか。では他に何かございませんか。

委員) 今回第一期創生戦略の総括ということで、順序が逆なのかも知りませんが、もうすでに第二期の創生戦略が今年の3月にできて、普通シナリオ的に考えますと第一期で取り組んだ成果あるいは課題、こういったものをしっかりと第二期に反映していくという流れになっていくのかなと思うんですが、やはり集計の時間が要りますのでこういうタイムスケジュールになっているということは理解します。この中で委員のお話にありましたように、集計していますと0～17歳までは265人社会動態増えていますね。一方で24歳～29歳だけをみても1500人を超える社会動態が減っている。こういうことを評価しますとせっかく子育て世帯の子供たちが増えているのに、20代後半になれば全部大都市部に人口が流出している。そういった意味で宇治市の努力が効果が上がらない結果になっている。アンケートの結果が仕事の関係や結婚の関係とか、お話がありましたけれども、宇治市内でしっかり仕事、雇用を作っていく、こういったことが定住につながっていくのかな。宇治市さんも第二期創生戦略に書いてありますように、商工会議所さんと一緒になって産業戦略を新たに作られて、新しい宇治市の産業振興に取り組んでいこうという流れを作っておられる。やはりこういう課題に対してしっかり対応をされているということが、第二期の創生戦略に書き込まれているかなと思いますので、第一期で残された課題を第二期でしっかり対応していますよという流れになるように、今回の第一期の総括をされたらより市民の方にもわかっていただけるんじゃないかなという気がいたします。

委員長) ご提案いただいた件で、事務局からどうぞ。

事務局) ありがとうございます。どうしても計画の策定のタイミングと総括のタイミングがございまして、昨年こちらの会議で色々ご議論いただきまして、第二期を策定させていただいたところです。昨年の時点では中間総括という形でまとめさせていただいて、今回についてはその最終年度というある意味結果の報告になります。ただ、本日いただいたご意見等につきましては、毎年度の御意見をふまえて次年度に活かしていくという、いわゆるPDCAでしっかりと回していきたいと考えておりますので、本日の御意見は十分に参考にさせていただいた事業展開を図っていきたいと考えております。また、御意見いただきました産業の関係ですね、人口をいかに歯止めをかけていくかという意味では産業振興というのが重要と考えておりますので、先ほどおっしゃっていただいた商工会議所様と連携してこの間いろいろと取り組みを進めておりますので、引き続きそういった視点を持ってしっかりと取り組んで参りたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

委員長) 今、委員から総括にあたって「第二期には反映しています」とかそういう書きぶりにした方がいいのではないかと、総括のまとめ方についての御意見があったんですが、そのあたりどうなりますか。今日は案を検討しているので、変わりうる可能性はある

のでしょうか。

事務局) はい。当然ここでいただきましたご意見を踏まえますし、またこのあとご説明させていただきますが議会にもご報告させていただきます。そういったところでご意見をいただきますので、そういった中で修正等させていただきます予定としております。

委員長) ありがとうございます。あくまでも令和元年度までの総括ではありますけれども、委員からご指摘ありましたように、第二期の方が先行してできておりますので、総括の段階で後付にはなりますが、何か「これはこうつながっていますよ」という説明があったほうが市民からは分かりやすいかもしれない。他に何かございますか。

委員) 今日の資料を拝見して、第一期の時から審議させていただいたんですけれども、5年を振り返るといろんな分野でたくさんの方が起こっているんだなと思ったところです。ただ、元々人口が減っていくことが問題だということで、この総合戦略が立てられていると思っているんですけれども、先ほどからご指摘ある通り人口が減ってしまっている。どれだけプラス目標を立てても、社会、自然動態でどうしようもないだろうということがあったので、それほど市民としてびっくりする話でもないのかなと思いました。ただ1点だけ少し、子育て世代からしてあれっと思うようなところがありまして、今日の資料で言うと105ページです。「学習環境と充実授業」というところで目標は宇治の未来を担う子どもを育むため、学習環境の充実を図ることが目標として掲げられている。KPIとしては理科が好きな児童生徒の割合が、これが正しいか分かりませんが、挙げられている。その中で理科が好きな児童生徒の数字を見ていると、京都府の平均より、当然年によって波がある統計だと分かっていますが、平均より9ポイント低い数値です。例えば平成30年の宇治市が46パーセントで、9.1ポイント低い。目標値としては京都府平均以上というところなんですけれども、これだけのギャップをどうやって埋めていくんだろうなというのが率直に小学生と中学生がいるんですけれども、思うところです。そして、冒頭に委員が指摘くださっていたように、コロナで子供たちがずっと家にいるのが続いた。親の気持ちとしては当然、遠隔授業はできないんでしょうかと、PTAの話でなったんですがそんなインフラがそもそも無理だと。学校にも相談して、管理職の方々は何とかしたいと強く思っていらっしゃるんですけれども、一般の先生方からすれば「そんなの元々無理でしょう。それは私立ですることじゃないですか」という言葉が返ってきたのがすごくショックで、どうなるのかと思っていましたが、今度はタブレットの全児童配布と聞いて良かったなという風に聞いていました。ただ学校でお話を聞いていると、「配布されるがそれをしてどうなるんだというのが全然見えないんです」と先生方が強く不安に思われていたので、当然そこは検討されていると思うんですけれども、早く先生方にそのあたりをフォローしてあげると、そこから保護者に伝搬していきますので、喫緊の問題なのではと思います。小中学生の子どもを育てる身としてはその点がすごく気になったところです。あと、

宇治学に関してはテキストを見たことがあります非常に面白い内容で、子どもも宇治茶のことが知れて「平等院に行った」など非常に良い取り組みが進んでいると思います。ですので、今このコロナ禍で学校がままならないとまた起こる可能性がある中での対策を強くお願いしたいです。以上です。

委員長) はい、ありがとうございました。今K P Iについてのご指摘ご質問がございましたが、事務局の方から何かございますか。

事務局) はい。まず理科好きな児童生徒の割合という事ですが、そもそもこのK P Iの設定がどうかというご意見もございます。第二期ではK P Iの方は見直しをさせていただいております。今回理科好きの割合を置かせていただいていたのは、どうしても理科離れが学習離れにつながるのではないかとというようなところも含めまして、こういう設定をさせていただいています。なかなか宇治市の場合、目標としております京都府平均以上とはだいぶ乖離がある状況でございます、この間取り組んで参りましたのは、まずは理科に触れていただく、子どもたちに興味を持っていただくという観点から、京都大学の宇治キャンパス、今連携協定を結ばせていただいております、そこでスクールサイエンスサポート事業というものを新たに展開する中で、実験ですとかそういったものに大学にご協力いただきながら、子どもたちに見ていただいているという取り組みを進めているところです。なかなかこれが数字として表れておりませんので、今後こういった展開をすればより学習に興味を持っていただいて、そういったところを伸ばせるかというのは常に検討して参りたいと考えております。タブレット端末関係で、先ほども答弁させていただいた通りで、今ギガスクール構想というのを国が進めていますので、それに沿うような形でハードを整理する。ハードだけでなくそれをどう活かしていくかがまさしく求められていると考えておりますので、しっかりと整備に間に合うように、学校の先生とも、宇治市として教育員会として調整しながら子供たちに良い教育が提供できるように協力させていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

委員長) では、他にいかがでしょうか。

委員) 第一期の総合戦略の総括ということで大変よくまとめられていると思いますし、ご苦労さまでございます。ただ、今後も戦略のP D C Aサイクルを回していかれる中で、令和2年度以降はコロナ感染の影響が色濃くでるんじゃないかと思っていまして、外部環境が大きく変わっていく中で、今後の総括、分析の仕方は何かお考えになっていることがありますか。

委員長) では、事務局お願いします。

事務局) コロナの影響は、当然今後のまちづくりに大きな影響が出てくると考えております。国の方でも創生の2020年の基本方針というものを閣議決定されておまして、その中ではウィズコロナ社会でどう対応していくかというあたりを特に重要視されております。この間、地方創生の臨時の交付金を国の方から手立てをいただく中で、新しい生活様式に沿った新たなまちづくりに向けた活用を強く求めてきておりますし、当然宇治市を見たときにいかに新しい生活様式の中で持続的に発展するまちを築けるかという意味での、今後の市民ニーズにどう応えていくかが非常に重要であると考えております。昨日も行政改革の実績の報告をさせていただいて、その時もやはり同様にウィズコロナを今後どうしていくんだというあたりが話題に多くのおぼておりましたので、そこはやはり日々状況が変わっておりますが、時代の変化をきちっと掴みながらこれまでと違うような展開、ICTとかそういったものをどう活用していくのかが大きなところとなると思いますが、そういう視点を持って、次年度以降、例えば予算編成などでどういう事業展開をするのかを十分に考えて参りたい。その上で地方創生の取り組みについても進めていきたいと考えております。

委員長) 総合戦略はその名の通り、中長期的な展望のもとに戦略的にいろんな取り組みをしていくことを前提にしたプランだと思います。そういう意味からしますと、コロナはとりあえずは緊急対策のような性格が強かったんですけども、どうやら一段落してもその後ずっとコロナと付き合いいかないといけないということになりますと、単なる緊急対策ではなくて、そこにある程度の中長期的な展望が必要になってくるので、第二期の総合戦略は既に決まっているわけですが、やはりこのコロナという新しい要素が入ってきたので、見直しまではいかないまでも、それを考慮した取り組みをしていかざるをえないのかなという気が確かにします。

副市長) 委員長のご指摘の通りだと思っております。この戦略自体は、数値目標とかKPIが比較的フレキシブルに動かしていくことにしておりますけれども、それ以外の所については、そういう形のコンセプトにはなっていないのですが、ただ基本的にSociety 5.0とSDGsをベースにしておりますので、そのあたりを切り口にしながら中身を持って行けるかなと思っております。ただご指摘の通り、コロナで仕組みとかも動いてくるかもしれませんので、そういう所はしっかり見ながら、場合によっては国の計画も動いてくる可能性もありますので、そういうことを踏まえながら見直すことがあるのかもしれません。ただ実質的にはご指摘のような形を踏まえながら予算内で動かしていくことは、おっしゃる通りだと思いますので、しっかりやってまいりたいと思っております。

委員長) 他にご質問、ご意見ございますでしょうか。

委員) 今お話にもあったように、コロナの影響で本当に経済が大変な状況だと思うんです

が、やっぱり子供たちがすごく可哀想だなと思っていて、今は外にも出られない、遊びにも行けない、一番大切な教育もちゃんと受けられていない。これはすごく未来にとっての大打撃だと思っているんです。それで今もICTに力を入れてというお話が出てきましたけれども、是非子供たちへの教育に、やっぱり私達大人はある程度我慢しますので、未来を担う子供たちにちゃんとした教育を受けさせてあげられるような、そういった設備をしっかり整えていただくことがきっと将来的に宇治にとってプラスになると思いますし、ちゃんとそういった教育もしてくださっている地域にはきっと「ちゃんと教育をしてくださっている地域なんだな」ということで、親御さんも自分の子どもたちをそこで住まわせないという気持ちがきっと出てくると思いますので、なかなか限られた予算で、コロナの状況で、大変ご苦労されていると思うんですけれども、是非子供たちへの教育に皆が知恵を出し合って、よろしくお願ひしたいと思います。

委員長) はい、ありがとうございます。事務局からは何かございますか。

副市長) ありがとうございます。おっしゃる通りでございます、これからの施策を披露する時に、皆一回しかないんですけれども、子供たちの教育の局面というのは本当に一回しかない大切なことだという認識を、教育委員会ももちろん持っております、そういう中で、まずお金の話ばかりではありませんので、やはりやらないといけないことはしないといけない。どうしようか、という議論の中で独自の支援スタッフを入れていこうと、打ち出しているところでございます。それもどういう形で効果が上がるかを検証しないといけませんし、また、この間国、あるいは京都府も相互支援策をいただいておりますので、やっぱり子供たちは、宇治学でも宇治をよく分かっていたいただいて、愛してもらおうということで、教育も本当に大事だと思っておりますので、行政でございますので、全般的には見ないといけないんですけれども、おっしゃっていただいたように子供時代の教育は非常に大きいという事は、教育委員会からも特に言われておりますので、市長にしっかりと対応していくように言われておりますので、頑張ったいと思っております。

委員長) では、他いかがでしょうか。ご発言よろしいでしょうか。では、色々ご質問やご意見をいただきましてありがとうございます。第一期の総括ということで、色んなKPIなどについて検証・検討していただきまして、それぞれについて分析がまとめられております。細かなところについてはもちろん色々ご意見等あるかと思いますが、全体的にはこのような取りまとめでほしい総括としてまとまっているという理解でよろしいでしょうか。特に大きな問題のご指摘はなかったと思います。第二期の計画を策定している段階からご指摘もありましたように、本来はこの総括が終わって、さあ第二期を考えましょうというのが理想的なんです、国の色々なスケジュールもありまして先に第二期を作ってしまった、今総括をしているという状況で、ちょっと不自然というか不都合な状態にはなっておりますが、先ほどご意見にもありましたようにせっかく総括しましたので、その成果といたしますか、結果を第二期の取組に是非活かしていただきたいと思ひます。

この、本日も検討いただきました総括案ということで、今後また色々な内部の検討や議会等の関係で、修正・変更も一部あるかと思いますが、本委員会としてはこの内容で、とりあえず総括としてはまとめられているというご確認をいただいたということによろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。本日予定しておりました議事は以上であります。何か委員の皆様、ご発言いただくことはございますでしょうか。

《委員が了承》

3. 閉会

委員長) それでは私の方で進行いたします議事につきましては以上ですので、この後の進行は事務局にお返しいたします。

事務局) 長時間に渡りまして、様々なご意見ご議論いただきまして誠にありがとうございました。皆様から頂戴いたしましたご意見につきましては、先ほど申しました市議会の総務常任委員会に総括案を合わせてご報告をさせていただきたいと考えております。また、本委員会、総務常任委員会でもいただきましたご意見を踏まえまして、修正を加え、完成させました最終的な成案につきましては、委員の皆様にも改めて、郵送になろうかと思いますが、ご報告をさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。今後も地方創生の実現、推進に向けまして委員の皆様のご意見を頂戴したいと考えておりますので、引き続きお願い申し上げます。事務局からは以上です。本日はありがとうございました。